

商用車架装物リサイクルに関する自主取組みの進捗状況について

自主取組みの内容	進捗状況															
1. リサイクル設計の推進																
(1) アルミ製冷凍バンの易解体性向上 および適正処理の推進	①2004年に易解体性のアルミ製冷凍バンを試作。 解体時間を12時間から8時間に短縮。 結果を車工会ホームページで公開中。 (2005年度報告済み)															
〔目標：易解体性バンの試作、製品展開〕	<易解体性アルミ製冷凍バン・試作構造の概要> i. インサート材を外板と同じアルミ材に切替え(鋸盤による切断の容易化)。 ii. ノンフロンタイプ断熱材の使用。 iii. 木材不使用。															
	②製品化 各社にて試作結果を製品に展開中。 個別仕様に合わせ可能な 項目を製品に反映。 2005年度車工会会員生産台数24,650台の約70%に盛込み済み。															
(2) 適正処理困難材(木材、断熱材)の 代替材検討	①木材：アルミ材または樹脂材への代替化の取組み。 i. 木材不使用の冷蔵・冷凍バンを2004年より製品化。 (生産台数の約10%程度) (参考資料12) ii. 木材使用冷蔵・冷凍バンも木材使用量の削減を実施。 (2004年度比で削減量約50%程度)															
〔目標：製品展開〕	②断熱材：オゾン破壊係数0の発泡剤に2005年12月100%切替済み。 (破壊係数0の発泡剤使用割合：炭化水素系発泡材約90%、 塩素非含有フロン発泡剤(HFC)約10%) 2006年4月より発泡剤名の表示を開始し現在拡大中。															
(3) 解体マニュアル作成	① 解体事業者等から要望されたレントゲン車、冷蔵・冷凍バン、 タンクローリは2004年から2005年にかけてマニュアル完成。															
〔目標：主要3機種の大半をカバー〕	② ダンプ、ミキサー等の主要機種も、ほぼマニュアル完成。															
	<table><tr><th></th><th colspan="2">2006年5月</th></tr><tr><th></th><th>作成メーカー</th><th>2005年度 台数カバー率</th></tr><tr><td>レントゲン車</td><td>4社/7社</td><td>71%</td></tr><tr><td>冷蔵・冷凍車</td><td>11社/22社</td><td>97%</td></tr><tr><td>タンクローリ</td><td>6社/6社</td><td>100%</td></tr></table> (注) 台数カバー率は生産台数に占める割合。		2006年5月			作成メーカー	2005年度 台数カバー率	レントゲン車	4社/7社	71%	冷蔵・冷凍車	11社/22社	97%	タンクローリ	6社/6社	100%
	2006年5月															
	作成メーカー	2005年度 台数カバー率														
レントゲン車	4社/7社	71%														
冷蔵・冷凍車	11社/22社	97%														
タンクローリ	6社/6社	100%														
(4) 環境基準適合ラベルの設定	・ 2004年3月環境基準適合ラベルを設定し、発行枚数を順次拡大中。															
〔目標：車工会会員生産車の80%に貼付〕																
<環境基準適合ラベルの要件>	<table><tr><th></th><th>2004年度</th><th>2005年度</th></tr><tr><td>架装物種類</td><td>122種類</td><td>138種類</td></tr><tr><td>貼付率</td><td>61%</td><td>80%</td></tr></table>		2004年度	2005年度	架装物種類	122種類	138種類	貼付率	61%	80%						
	2004年度	2005年度														
架装物種類	122種類	138種類														
貼付率	61%	80%														
①3R判断基準ガイドラインの作成	(注) 貼付率とは車工会会員の生産台数に占める環境適合ラベル貼付比率。															
②解体マニュアルの作成・公開																
③製造業者名の表示																
④樹脂部品材料名の表示																

2. 環境負荷物質の使用削減

- (1)鉛
〔目標：使用量 2002 年度 60g/台
→ 2006 年度 30g/台に半減〕
- (2)水銀
〔目標：2005 年 1 月以降使用禁止
(照明装置等を除く)〕
- (3)六価クロム
〔目標：2008 年 1 月以降使用禁止〕
- (4)カドミウム
〔目標：2007 年 1 月以降使用禁止〕

・電着塗装等の早期切替で 2005 年度(1 年前倒し)に目標を達成。

	2002 年	2004 年 10 月	2005 年 5 月	2006 年 5 月
使用量	60g/台	38 g/台	19 g/台	14 g/台
2002 年度比	100%	63%	32%(目標達成)	23%

(注)上記使用量はバン、ダンプ、タンクローリ等、主要な 30 車種の車工会会員生産架装物における平均値。

・2005 年 1 月までに切替完了、目標達成。

・大型商用車等の切替えと合わせて対応中。2007 年には切替見込み。
(ボルト・ナット、金具類)

・使用禁止に向け代替品性能を確認中。2006 年末には切替見込み。

3. リサイクル・適正処理の推進

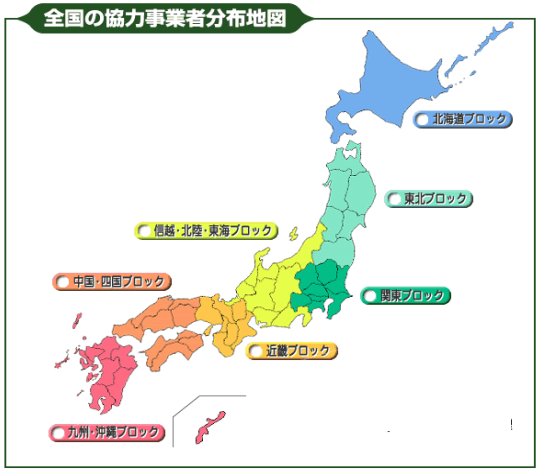
- (1)協力事業者制度の構築と拡充
〔目標：制度への登録拡充と
各ブロックへの適正配置〕

- ①協力事業者について充実と地域的な偏在をなくすべく、参加事業者を順次増加。
- ②2005年度はバンボデー、タンクローリタンク等の丸ごと処理※1)可能な業者(29社・43事業所)を追加。
- ③今後、解体事業者等から要望のあるタンクローリ残留物分析業者、タンク洗浄及び残留物が処理可能な業者の紹介を準備中。

参加事業所数(事業者数)の現状

	発足時 2004年3月	2005年5月	現在 2006年5月
参加事業所数(事業者数)	68(63)	91(83)	123(103)
木材	32(31)	48(45)	56(50)
断熱材	34(34)	57(54)	75(66)
F R P	40(35)	56(53)	80(69)
丸ごと処理	—	—	43(29)

(注)複数品目で参加の事業者があるため、品目毎の合計値と参加事業者数は異なる。
(※1) 丸ごと処理とは素材ごとに分離せず、架装物アッセンブリー状態でシュレッダー等で処理。



- (2) F R P 再資源化の推進
〔目標：F R P 再資源化業者の
協力事業者制度への登録〕

- ・F R P 製冷凍バンについて F R P 廃船中間処理事業者にて解体及びセメント材料としての再資源化実験を実施。セメント材料としての再資源化処理が可能であることを確認。その 1 社を協力事業者制度へ追加し、車工会ホームページへ掲載 (2005 年 9 月)。

4. 情報提供、啓発活動の推進

(1) 架装物チラシの作成、配布

①2004年度に架装物の判別・自主取組み概要を紹介した架装物チラシを作成、配付。(100万部 配布先 自販連等)

②2005年度は架装物廃棄時の注意事項を追加した改定版65万部を作成、配布。
(参考資料13)

(配付先：自販連 34 万部、日整連 10 万部、全日本トラック協会 3.3 万部、中販連 1.2 万部、その他(メーカー経由配布含む))

(2) 解体マニュアルの公開

・車工会各社ホームページにて公開中。

(3) 環境負荷物質使用部位の公表

・主要車体の環境負荷物質(4物質：鉛、水銀、六価クロム、カドミウム)の使用部位を車工会ホームページへ掲載。(2006年6月)